

式 辞

本日、ここに政官界、教育界、産業界などの各界、ならびに後援会、同窓会から多数のご来賓の方々のご列席を賜り、鈴鹿工業高等専門学校創立 50 周年記念式典を執り行うことができますことを、鈴鹿工業高等専門学校を代表して心よりお礼申し上げます。また、本校の歴史を築き、長年にわたって本校を支援していただいた同窓生をはじめ関係するすべての方々と、この場において喜びを分かち合うことができますことは、本校の教職員、学生にとって誠に大きな喜びであり深く感謝いたします。

さて、鈴鹿工業高等専門学校は、昭和 37 年、国立工業高等専門学校の 1 期校 12 校の一つとして全国に先駆けて創設されました。50 周年記念誌には、本校の創設に当たっては、三重県と鈴鹿市、三重県議会、鈴鹿市議会、三重県教育委員会、鈴鹿市教育委員会の六者連携の活発な誘致運動により実を結んだと記されており、三重県ならびに鈴鹿市の地域の方々の強い期待を感じずにはおられません。

当初は、機械工学科、電気工学科、工業化学科の 3 学科体制で船出した鈴鹿高専ですが、金属工学科、電子情報工学科がその後加わり 5 学科体制となりました。平成 5 年には、これら本科卒業生を対象に、さらに 2 年間の高度専門教育を施す専攻科が設置され、高等教育機関として一層充実することになりました。いくつかの名称変更を伴う改組を経て、現在では、本科は機械工学科、電気電子工学科、電子情報工学科、生物応用化学科、材料工学科の 5 学科により構成されています。そして、専攻科には電子機械工学専攻および応用物質工学専攻の 2 専攻が設置されています。

お陰様で、この 50 年間、本日ここにご列席の各界の皆様方をはじめとする多くの方々の力強いご支援ならびに過去 7 代にわたる校長の卓越した指導力、そして多数の教職員の働きにより、本校は充実発展を遂げることができました。7500 人近くの卒業生を世に送り出し、その活躍ぶりは高く評価されています。50 周年記念誌には、この 50 年にわたる卒業生の活躍も記載され、本校の社会での確固たるプレゼンスを読み取ることができます。また、本校教員の教育研究活動も活発であり、いくつかの国内外での著名な学会での受賞や代表的な競争的資金の多数の獲得にみられるように大きな成果をあげています。

本校の学生数は本科、専攻科あわせて約 1200 名、うち女子が約 2 割となっています。知徳体の統合された人材育成を建学の精神とする本校の学生は、関連学会において大学生に伍して多数の賞を授与されるとともに、課外活動も活発であり、体育系クラブにおいては国体や全日本選手権、インターハイに出場する選手を輩出するとともに、高専大会では優勝の常連校ともなっています。また、文化会活動も活発であり、先の高専祭においてバスケットボール女子、剣道部女子、水泳部、テニス部、陸上部に加えて囲碁将棋部を特別表彰したところですが、また、各種コンテストをエンジニアリングデザイン教育の成果の発揮の場としてとらえ、ロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、ソーラーカー・低燃費カーレース、小水力発電コンテストなどに参加し、顕著な成績を収めています。特に、ロボコンにおいては、本年度の東海・北陸地区大会においては悲願の優勝を勝ち取り

全国大会に出場することになりました。

本科卒業後の進路については、厳しい時代にありながら就職は極めて堅調であり、絶えず100%の就職率を誇るとともに求人倍率も20倍近くとなっています。また、向学心に燃えて専攻科や国立大学などへ進学する学生も多く、半数近くを数えています。専攻科修士の就職は本科生以上に求人倍率が高くなっており、順調に推移しています。そして、約4割は大学院に進学します。

地域に支えられ発展する鈴鹿高専は地域との連携活動も活発に行っています。公開講座や出前授業、駅前キャンパス、そして女子中高生への理系進路支援プログラム、科学コミュニケーション推進事業などの多彩な取り組みにより小中学生の理科教育の充実に貢献しています。地域の企業との協働の取組もSUZUKA産学官交流会などを通じて行うとともに、さらに一層の充実発展を図るため、三重県下の企業とタイアップして企業の研究開発の促進と鈴鹿高専の教育研究の充実発展を目指した協力会の設立に向けた準備を、同窓生のご支援をいただきながら鋭意進めているところです。また、国際交流においては、米国・オハイオ州立大学工学部、カナダ・ジョージアンカレッジ、中国・常州信息職業技術学院と交流協定を結び、毎年学生の交流を行っています。

鈴鹿高専の使命には「技術者養成に関する地域の中核的教育機関として、国際的に活躍する人づくりと新しい価値の創造により、社会の発展に貢献する。」とあります。つまり、「地域に根差し、世界に羽ばたく鈴鹿高専」になるよう一層努力する必要がありますが、その担い手となる人材の育成を、国際力の涵養、および地域からのニーズを的確にとらえた実践的創造力の鍛錬により、今まで以上に推進したいと思っています。幸い過去50年にわたる高専教育の取り組みは中央教育審議会やOECDなど国内外から高く評価されています。これらの評価を力に、既存の大学システムとは異なる高専型高等教育システムの深度化を図りたいと思っています。創立50周年を節目として、次なる50年の進化のために教職員一丸となって邁進する所存です。

結びに、創設以来、物心両面にわたりご協力を賜りました関係各位に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、50周年記念事業にあたり鈴鹿高専の発展のために多大なるご支援をいただいた青峰同窓会をはじめとする方々に厚くお礼を申し上げますとともに、皆様方のご健勝ご多幸を祈念し式辞といたします。

平成24年11月3日

鈴鹿工業高等専門学校長 新田 保次